

にいがた
勤務医ニュース

発行所
新潟県医師会
新潟市中央区医学通2-13
TEL 025(223)6381

これから生涯医師です。やりたいたいことを思いっきりやってください

新潟県医師会 理事 鈴木 榮一



卒業おめでとう。医師国家試験を無事クリアし、我々の仲間になってくれて、ありがとうございます。私は、大病院に勤務していた頃、あるいは今臨床研修病院に勤務している立場で、医学生や臨床研修を希望して面接に来られる卒業生の方と、しばしばお話しする機会があります。

他の学部との違いで、いろいろな職業につくという選択肢はほとんどありません。まさに皆さ国家試験に合格して、臨床研修医として私たちの仲間になってくれたのですが、これから一生、自分が辞めると言うまでは医者をやることになります。

皆さんは、今自分の将来に、どんな医師像を思い浮かべているでしょうか。将来の自分の姿をすでに想定している人がいる一方、まずは学生から医師(臨床研修医)になって、これからの自分に期待し、不安とともにものすごくワクワクしている人もいます。自分では、何十年も前になりませんが、私自身は後者だったような気がしています。今の思いはどちらでも良いと思います。ただし、これから皆さんは、これまで生まれてから医学

卒業おめでとう



研修医の到達目標は自信をつけること

長岡赤十字病院 院長 藤田 信也

卒業おめでとう。30年近く中越地区の基幹病院で研修医の教育を担当してきました。毎春、希望に満ちた新しい研修医を

迎えると、40年前の自分を思い出します。私は、昭和59年に鳥取大学を卒業しました。新潟に戻って来て、内科研修の1年目は大学病院で神経内科と第一内科(循環器・血液・内分泌代謝)をまわり、2年目は佐渡総合病院で研修をしました。一日も早く、いろいろな手技ができるようになりたい。実際の臨床現場で、ひとりでも多く患者さんを診たい」という気持ちで強く、上の先生の当直ももたらして、がむしゃらに働きました。「働き方改革」はもちろん、「医療安全」

と学びました。診療の第一歩は、患者さんと信頼関係を築くことです。それは、患者さんに丁寧な接し方と、患者さんとの深いお付き合いを、「患者さん」のように接している研修医の姿を見ることがありますが、それでは患者さんの安心感を得られませぬ。患者さんの悩みに共感すること、そしてわかったことだけでなく、わからないことも正直に伝えることが大切です。そうすることで患者さんは心を開き、多くのこ

に変わっても、患者さんの診方の基本は変わらないはず。手術はうまいが、怖くて口の悪い医師」と「優しくて説明も丁寧だが、手術が下手な医師」のどちらがかかりたいかと問われれば、前者しか選択肢がなかった時代がありました。皆さんは、研鑽を積み「治せる患者を見逃さず」(Curing the patient)、治せない患者には寄り添う(Healing illness)、全人的な医療ができる医師に育っていただくことを期待しています。

部を卒業するまでの期間より、はるかに長い期間を「医師」として生活することになります。どうせ医者やるのなら、自分のやりたいたい、あるいはやりがいのある医者になって、日々を勤めていたければと思います。臨床研修にしっかり取り組みながら、それを見つめるのが、まずはこれから皆さんのやるべきことではないかと思えます。

私自身を振り返ると、まだ今の臨床研修制度が始まるはるか前の時代ですが、新潟大学を卒業後、当時は少なかつた研修病院の県立がんセンター新潟病院で内科研修を始めました。高校時代に野球に明け暮れたこともあり、研修医時代に結婚した奥さんには、「将来は出身地(巻)の近くの病院に勤務し、仕事が早く終わったら、母校(巻高校)の野球のノックに行きたい」と語っていました。今思えば、非現実的なことですが、二内科に入局しましたが、呼吸器内科の専攻でしたが、最初の指導医に相談して即決していただいたという経緯でした。前期出張病院であった医師のきわめて少ない糸魚川病院(今の総合病院ではなく)では、臨床研修で学んだことを、指導医のいない状況でやっていました。その後、1歳の子供と妻(小学校の教員)を私の実家に残して、2年ちよつと聖路加国際病院で呼吸器病理の勉強をさせていただきました。新潟に戻ってからは、県内で初めて救命救急センターが開設される新潟市民病院でその立ち上

り、一緒に仕事や学びを共有できる日を、楽しみにしています！

げに参加し、大学に戻ってからは、呼吸器内科医を目指す若者達と楽しい(?) 大学医局生活を送りました。その後、医学部教育の改革で、大学病院の臨床研修センターの立ち上げに関わったりもして、医師養成に関与することになりました。ついでには、思いもよらない大病院の病院長を6年間経験させていただき、地域医療構想の策定に関わることができ、現在は単身赴任で魚沼基幹病院の病院長を務めています。

その他にも、いろいろなことを経験させていただきました。そのほとんど(すべて?) が、自らというより周囲からの勧めでした。最終的には自分でやろうと決心して取り組んだことでした。本心に周りに恵まれていたのと、年に一度の家族旅行以外は、妻と3人の子供たちの理解(あきらめ?) と協力(がんばり?) の賜物だと思います。今になって深く感謝しています。3人の子供はすでに全員結婚して家を出ていますが、年末年始に、それぞれが2人の孫を連れて我が家に来ると、とても楽しいお正月でした。私一人の大家族になって大変でしたが、とても楽しいお正月でした。

私の思い出話ばかりになってしまいましたが、皆さんは医師の働き方改革への対応と、ご自身の大切な家庭を築くことは不可欠です。また、信頼できる指導医に出会うこと、なんでも相談できる先輩、同僚、後輩を持つこと、そして、様々な立場の人と関わり、多くの仲間を作ること大切です。

という言葉もありませんでした。研修医でありながら、ひとりで胃力メラをやるような時代でした。最初の2年間で出会った指導医や先輩から、臨床で最も大切なものは「人間力」だと

とを語ってくれて、さまざまな情報で得られて診断に役立つのです。新しい研修医へのオリエンテーションで、研修医の到達目標は、「自信をつけること」と話しています。まずは、多くの患者さんを見て経験を積み重ねれば自信は得られます。今の研修医は、診療科を次々と回って、多くの上級医などと接しなくてはなりません。ともに患者さんを診て終わりにし、患者さんへのフォローが大切です。サマリは、主治医見解(症例から学んだこと)までをしつかりとかつコンバクトに書く訓練が大切です。学会で症例を発表する機会を逃さず、症例報告として論文にまとめる、経験した症例は血肉になり、さらに新しい発見につながることもあると思います。それ

を期待しています。まずは、思いっきり「医者」をやってください。皆さんの活躍を期待しています。



1、お祝い
卒業生のみならず、このたびはご卒業おめでとうございます。

3、自分を大切に、自分に期待を

ご卒業おめでとうございます！
たくさんのお会いと社会への貢献を

新潟大学大学院医歯学総合研究科
腎臓病センター
腎臓病内科学分野 教授 山本 卓

姿勢を忘れないでください。標準的な治療を提供するためにはガイドラインやスコアリングシステムが有用ですが、これらに当てはまらない症例にも出会うでしょう。将来的には「AI」を活用した診療が普及するかもしれませんが、診療プロセスの本質を理解し、個々の症例における妥当性を検証することは、医師の重要な役割であり続けるでしょう。

卒業おめでとう ございます

済生会新潟病院 眼科 櫻澤 慧 (令和2年卒)



ご卒業心よりお祝い申し上げます。そして多くの方々から研修医としての新たな一歩を踏み出されることと思います。感慨ながら、研修医としての心構えについて、私の思いを伝えさせていただきます。

研修医時代は、医師としての基盤を築く重要な時期です。この2年間で様々な診療科を経験する中で、幅広い視野とスキルを養う機会に恵まれます。それぞれの科での学びや経験は、あなたが将来どのような専門分野を選んでも必ず役立つ糧となるでしょう。一見、自分の興味や

力をぬいて楽しもう

新潟市民病院 消化器内科 花野 薫 (令和3年卒)



皆さん、ご卒業おめでとうございます。長い学生生活を努力・研鑽し、無事に卒業の時を迎えられたことを心より喜び申し上げます。医師4年目、消化器内科医2年目の未熟な私からいえることは少ないですが、この4年間を振り返り感じたことを書かせていただきます。

研修医期間は、様々な科をまわり、一定期間で環境が変わることはなかなかストレスです。医師の一員になって働くのは、学生の時のように外からみるとは全く異なりますので、学生のころの興味のある・ないは置いておいて、まっさらな気持ちでどの科も向き合い学ぼうと思います。どの科で働いても、共通して大切なことは患

卒業おめでとう ございます

長岡中央総合病院 研修医 寺澤 昂 希 (令和5年卒)



ご卒業おめでとうございます。この度は「学び」の連続と感じました。医学生としての6年間はあくまで医師になるための準備期間で、これからは実際に患者さんと向き合い、医師としての判断を下さなければなりません。手探りの中で判断を下し、時にはミスをすることもあると思いますが、特に最初はカルテの使い方すらままならず、業務に追われ、仕事のペースに慣れるのも一苦労です。そんな中で医師として必要な知識や技術を身につけて

卒業おめでとう ございます

新潟県立新発田病院 整形外科 杉山 真梨江 (令和4年卒)

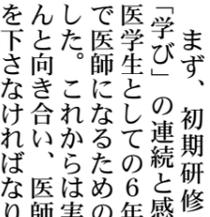


卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。医学部を卒業し、これから医師としての第一歩を踏み出す皆様へ、心からお祝いとエールを送ります。コロナ禍であり多くの制約の中、学生時代を過ごされたことと思います。まずは無事に6年を終えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

春から晴れて医師としての第一歩を踏み出される皆様へ、機会を頂戴しましたので、これから医師として3年間働いてきて大切だと思ったことを2点お伝えしたいと思います。

卒業おめでとう ございます

新潟県立中央病院 研修医 伊藤 伸 悟 (令和6年卒)



この度は「学び」の連続と感じました。医学生としての6年間はあくまで医師になるための準備期間で、これからは実際に患者さんと向き合い、医師としての判断を下さなければなりません。手探りの中で判断を下し、時にはミスをすることもあると思いますが、特に最初はカルテの使い方すらままならず、業務に追われ、仕事のペースに慣れるのも一苦労です。そんな中で医師として必要な知識や技術を身につけて

卒業おめでとう ございます

新潟県立中央病院 研修医 伊藤 伸 悟 (令和6年卒)



ご卒業おめでとうございます。幾多の困難な試験を乗り越え、医師としての第一歩を踏み出される皆さんに心よりお祝い申し上げます。春から医師として働くにあたり、期待と不安が入り交じった感情を抱かれています。このような寄稿の機会をいただきましたので、自分が1年間の研修で感じたことを基に、研修生活で大切にしていた、たい2つのことをお伝えします。

まず1つ目は「話しかけやすいオーラ」です。医療の現場は多職種連携で成り立っています。診察・診断し治療方針を決めるのは主に医師の仕事ですが、入院している患者さんや、一番近くで診ているのは看護師です。患者さんの些細な変化や訴えから容態の変化に気付かされることも多々あります。しかし我々が「話しかけづらそう」にしていけばそのような些細なこととはそのままなかつたことになつてしまう可能性もあります。仕事をしている最中であつても、話しかけられたら手を止めて話を聞く姿勢を大切にしたいと思えます。

編集後記

皆さん、ご卒業おめでとうございます！これから始まる研修生活への期待と不安が入り混じる。いや、恐らく不安が大半を占めていることでしょう。でも大丈夫！誰もが最初は「自分か？」と思いがちです。研修医の特権は、「分からないことを堂々と問うこと」です。遠慮せず、先輩医師を捕まえて質問攻めにしましょう。

忙しい疲れ果てた日は、美味しいものを食べ、しっかりと寝て、気分転換を忘れずに。医者としての道のりは長いですが、無理をせず、楽しみながら一歩ずつ前に進んで下さい。皆さんのご活躍を心より応援しています。(竹之内)